

同士少女よ、敵を撃て

逢坂冬馬著 電気工学科5年 堀江 太成

単射式ライフルを構え、T字照準器の向こうに人影をとらえる。敵はフリッツ(ドイツ兵)。凍えるような厳冬、吐いた息が白く舞い上がる。彼女は心を限りなく「空」にして引き金を引いた。

1941年6月22日ドイツ軍が独ソ不可侵条約を破って第二次世界大戦の第二幕、独ソ戦が始まった。1942年戦争が激化する最中、モスクワ近郊の農村で暮らす少女セラフィマの日常は突如として奪われる。ドイツ軍の食料の奪取を目的とした急襲によって、母や村人が惨殺されたのだ。自らも射殺される寸前、赤軍の女性兵士イリーナに救われ、そして問われる。

「戦いたいのか、死にたいのか」

セラフィマは戦うことを決意する。母を撃ったドイツ狙撃手と、母の遺体を焼き払ったイリーナに復讐するために。同様に家族を失った女性狙撃手とともにセラフィマは、モスクワ戦、900日にわたるレニングラード包囲戦、ソ連勝利への道を切り開いた第二次世界大戦最大の市街戦スターリングラード攻防戦に抛りこまれる。

国という単位で行われる戦争にとって、兵士とは国を形成する細胞のひとつかけらでしかない。愛国心に従いながら、生きていくために人を殺す。自らの肉体は生存本能の奴隷となり、本来の形を失っていく。そして、いつしか敵の“死”を以って“生”を得る兵士となるのだ。セラフィマも同様に戦場体験を重ねるたびに自らを失い冷徹になっていく。

なぜ戦うのか？

捕虜は痛ましい尋問の果てに惨殺され、女性一般市民は男性兵士の性的欲求の解消に利用される。形骸化された戦時国際法、理不尽な戦争の現実。

自分には何ができるのだろうか？

これは英雄譚などではない。復讐心に駆られ、狙撃手として参加した少女が血や泥にまみれた戦場で自らを探す物語である。女性だけの狙撃小隊での友情、仲間の喪失、逡巡。それらを体験した先にセラフィマが目撃した本当の“敵”とは。

単射式ライフルを構え、T字照準器の向こうに人影をとらえる。

敵は…。

同士少女よ、敵を撃て。



ブックハンティングについて

学生図書委員会の特に大きなイベントです。

年2回、各クラスで購入希望図書を募り、その図書を大阪の大型書店で購入する活動ですが、コロナ禍においてはオンラインで実施しています。1階奥にコーナーがあります。

本日は、お日柄もよく

原田マハ著 情報工学科1年 升岡 瑞葉

OL二宮こと葉は想いを寄せていた幼馴染の結婚式に参加し、退屈なスピーチに眠気を誘われスープ皿に顔を激突させてしまう。退屈なスピーチが続く中こと葉は伝説のスピーチライター久遠久美の衝撃的なスピーチと出会う。そのスピーチに心を動かされたこと葉は久美のもとに弟子入りする。久美のもとで経験を重ねることで、こと葉は「言葉の魅力」を知っていく…

言葉はとても大きなパワーを持っています。誰かにかけてもらった一言が大きな励みになったこと、誰かのスピーチを聞いて涙が溢れたことはありませんか。本作品ではそんな言葉の魅力について焦点が当てられています。とても丁寧に力強く物語が紡がれており、主人公こと葉が言葉に魅了されていくのと同時に、みなさんも物語に惹きこまれていくことでしょう。この本を読み終えたとき、ポカポカした気持ちに包まれ、そして、必ず言葉の魅力に取り憑かれていることと思います。

“困難に向かい合ったとき、もうだめだ、と思ったとき、想像してみるといい。三時間後の君、涙が止まっている。二十四時間後の君、涙は乾いている。二日後の君、顔を上げている。三日後の君、歩き出している”

これは本作品を初めて読んだ時からずっと、私の心に深く刻みこまれているフレーズです。物事が上手くいかなくて落ち込んでいるときにこの言葉を思い出しては「大丈夫。何とかなる」と私の心を支えてくれます。そして、その支えおかげで少し心が軽くなります。不思議なもので心が軽くなったら途端に物事が上手く進むようになったりします。

言葉というのはとても大きく大きな力を持っています。でも、だからこそ正しく使わないと人を傷つける武器にもなってしまいます。せっかくこんな豊かな表現方法を持っているのだから、誰かを傷つけたり悲しませたりするためではなく、世界をよりよくハッピーにするための力として言葉を発していきたいなと思います。

編集後記

図書館だより第79号に執筆いただいた皆様、ご寄稿ありがとうございました。

昨年度に引き続き今年度もコロナ禍で利用制限など、ご不便おかけしておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(図書館)



奈良工業高等専門学校 図書館

〒639-1080 大和郡山市矢田町 22

TEL 0743-55-6015

URL <https://www.nara-k.ac.jp/nnct-library/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

科学道100冊



科学道100冊とは国立研究開発法人理化学研究所等のプロジェクトにより選ばれた図書で名誉教授 宮本止戈雄先生より寄贈いただきました。1階奥に科学道100冊2019～2021をラインアップしています。